

平成27年度

# 学生生活実態調査

## 報告書

Aichi University of Education



国立大学法人

愛知教育大学

## はじめに

平成 27 年 7 月に実施した学生生活実態調査の結果がまとまりましたので、ここに報告致します。前回は平成 23 年度に実施しましたので 4 年ぶりの調査になりますが、回収率が、前回の 66.9%や前々回平成 18 年度の 12.8%と比べて今回は 84.3%と非常に高く、学生の皆さんの声をより反映した結果になったと思います。ご協力いただいた学生や教職員の皆さんに感謝申し上げます。

本学には学部生、大学院生等、4,200 名余の学生が在籍しています。そこに関わる教職員は 500 名余(非常勤講師を除く)であり、合計 4,700 名余のコミュニティがこの刈谷キャンパスに作られています(附属高校分を除く)。学生はその重要で最大なる構成員です。しかし、学生がこのキャンパスでどのような過ごし方をしたいのかを意見表明できる機会は、日頃はあまりないのではないのでしょうか。日常的に親しい仲間や教員には意見や不満を言うことはあっても、その問題に向き合い解決・改善のために具体化する行為にまでは発展しないのではないのでしょうか。この生活実態調査を通して、より多くのデータを基に客観的に学生の実態や意見を知り、理解を深め、共に検討する中でキャンパスの改善につなげていくことが重要であろうと考えます。

今回の調査からは、キャンパスの整備・美化や、福利施設(食堂・売店)の充実、駐車場・駐輪場の整備・拡充への期待の高さが明らかになりました。これまでも生協の改修や音楽棟南側における駐車場・駐輪場の新設、美術棟の改修や教育未来館の新築、教育総合棟及び生協前広場の大規模改修、大学会館の改修など、順次、大小様々にキャンパス整備・美化に努めてきました。是非、有意義に活用して下さい。

今後も厳しい財政状況の中ではありますが、この調査に込められた皆さんの意見を改善に向けての貴重な意見であると捉え、引き続き施策に反映させていきたいと思ひます。より良い愛知教育大学の創造のために、今後ともご協力の程、どうぞよろしくお願い致します。

平成 28 年 3 月

愛知教育大学 学生支援委員会委員長

新井 美保子



# 目次

1) 基本事項 .....	1
2) 経済状況 .....	2
3) アルバイト .....	3
4) 通学状況 .....	4
5) 学生支援体制について .....	5
6) 大学の施設利用、居場所 .....	8
7) 授業のある日の時間の使い方 .....	9
8) 将来の進路 .....	12
9) 課外活動 .....	15
10) 施設 .....	17
11) 大学に期待すること .....	19
12) 大学への要望・期待(自由記述) から .....	21
13) 総括 .....	22
14) 参考資料 .....	24





# 1) 基本事項

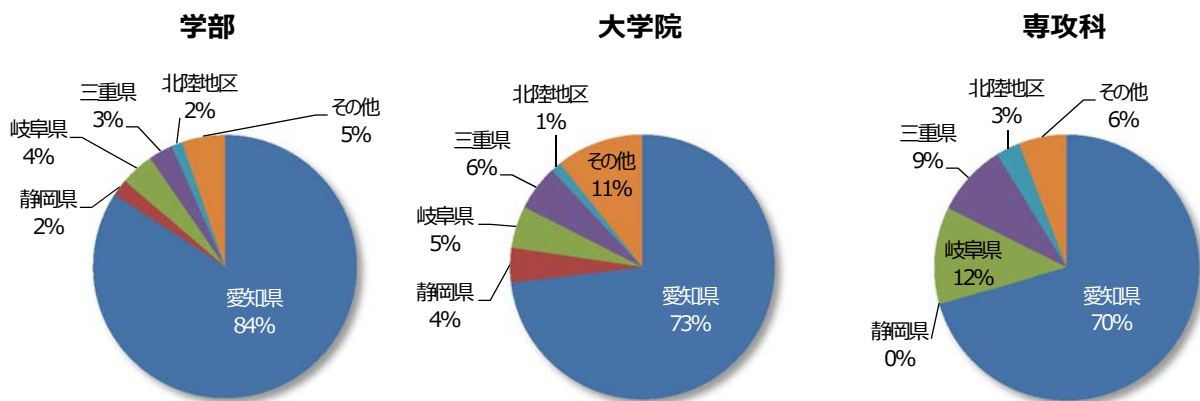
## <愛知教育大学の学生は、8割以上が愛知県出身者>

回答してくれた学生は、学部生 3,304 人、大学院生が 234 人、専攻科の学生が 34 人でした。前期講義期間ぎりぎりの配布にもかかわらず教員の協力により、平成 23 年度調査から引き続き回収率は上がっています。

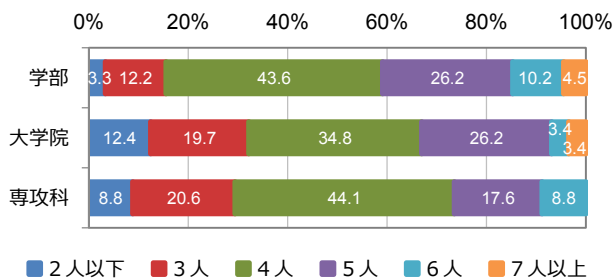
愛知教育大学の学生は、学部で 8 割以上が愛知県の出身者、大学院でも 7 割以上が県内出身者であり、その傾向は、平成 23 年度の調査から変わっていません。遠方からの入学者は、近畿・北陸以外では関西圏が多く、関西圏よりの大学と言えるかもしれません。基本的には地元密着型の大学として存続していると考えられます。家族の人数は、比較的多い傾向にあり、学部で 5 人以上、という学生が 41% います。ただしこれは兄弟姉妹数が多いのか、三世代同居によるものかは調査からはわかりません。それでも 23 年度と比較すると家族数は減少傾向にあります。平成 23 年度は、5 人以上の家族が 46% でした。この変化が少子化によるものか、核家族化によるものかは不明です。

	学生数	回収数	回収率
全体	4,238	3,572	84.3
学部	3,901	3,304	84.7
大学院	303	234	77.2
専攻科	34	34	100.0

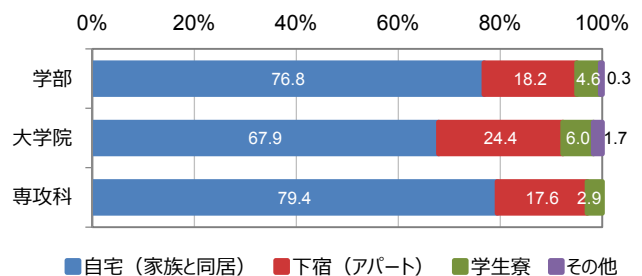
(家族の住所)



(家族の人数[あなたを含む同一生計者の合計を記入])



(あなたの住居)

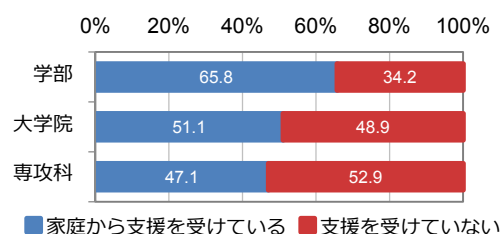


## 2) 経済状況

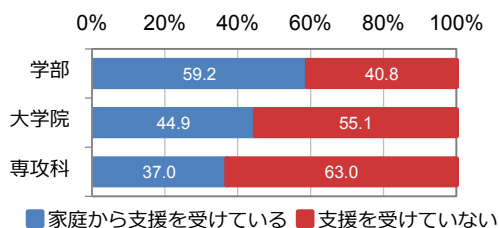
### <家族からの支援がないと答える学生が34%>

家族からの支援がないと回答した学生は、学部で34%です。これは平成23年度の比率と変わらず、この間経済状況の変化は特別見いだされません。自宅生になると支援のない者は4割を超えますが、下宿生、寮生などにおいても12%の学生が支援なしと答えています。また自宅外の学部学生の最多の支援額は3~5万円であり、これも平成23年度の調査と変わりません。また授業料負担者が自分と答えた学生は、学部で14%います。この項目は今年度から、支援なしと答えた学生の実態をより明確にしようと加えたもので、自宅生でも12%は自分が授業料を負担していると答えており、支援なしと答えた自宅生のうちでも、アルバイトなどによる収入の必要なものがこれだけいることが明らかとなりました。また大学院生の場合は、36%が授業料を自分で負担し、かつ家庭からの支援はないと回答しており、公的支援の必要性が見いだされます。

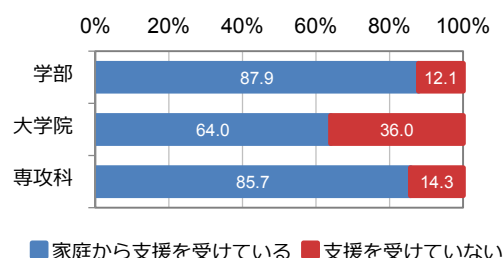
(家庭からの支援状況の状況・全体)



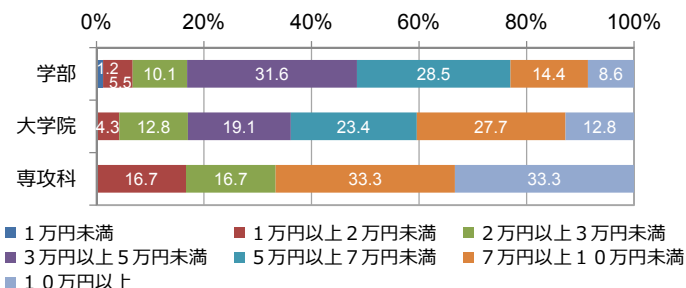
(家庭からの支援の状況・自宅生)



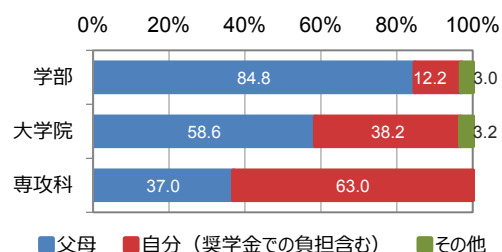
(家庭からの支援の状況・自宅外生)



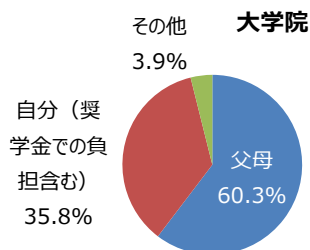
(家庭からの支援月額・自宅外生)



(主な授業料負担者・自宅生)



(主な授業料負担者)

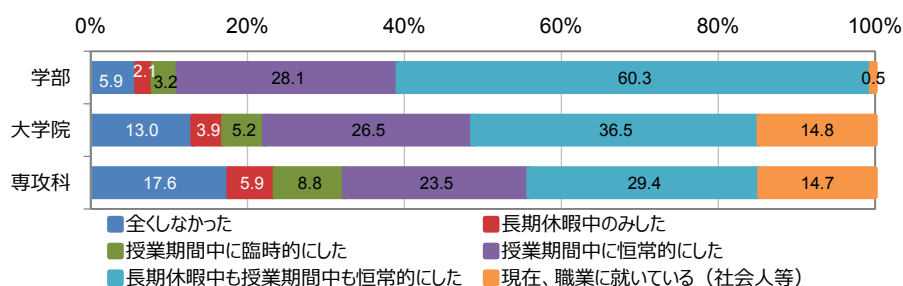


### 3) アルバイト

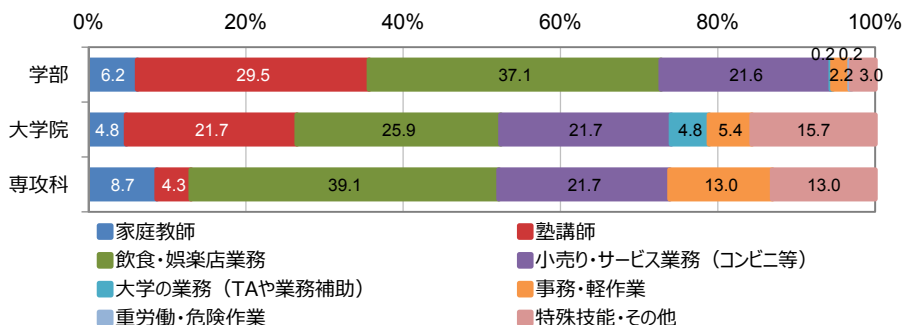
#### <アルバイトは学生の日常生活、必要性は増加傾向>

アルバイトを授業期間も日常的に行う学生は学部で9割近くに上り、平成23年度の84%より微増傾向にあります。月収についても月10万円以上のものが3%おり、自らアルバイトで生活を支える学生がこれだけいることが分かります。問題は深夜22時以降の就労が4%も見いだされることで、学業や健康への影響を考えると、こうした就労をしないで済むような支援の在り方が求められます。アルバイトの職種は塾講師がほぼ3割で、平成23年度より減少傾向にあります。代わりに飲食・娯楽店勤務が37%に上り、自宅外生では49%になることから、こうした職種の変化は、将来の職業選択と関連付けられる職種よりも、より多くの収入を見込める職種へと、学生の選択が変化しているのが理由と推測されます。

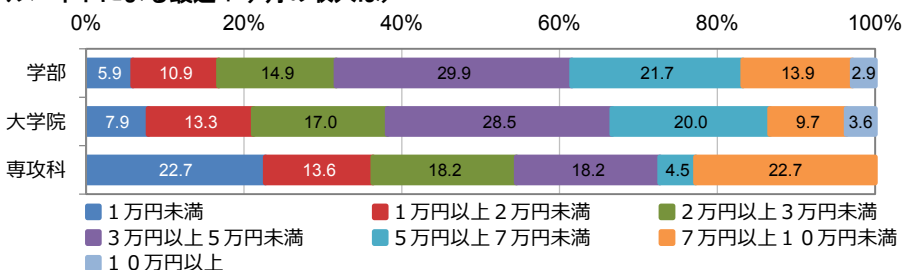
(アルバイトの就労状況は)



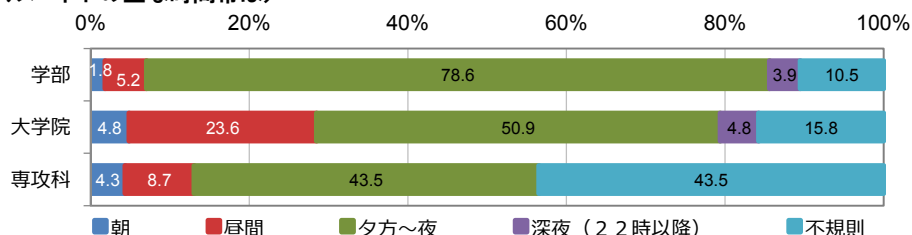
(主なアルバイトの職種を1つ選んでください。)



(アルバイトによる最近1ヶ月の収入は)



(アルバイトの主な時間帯は)



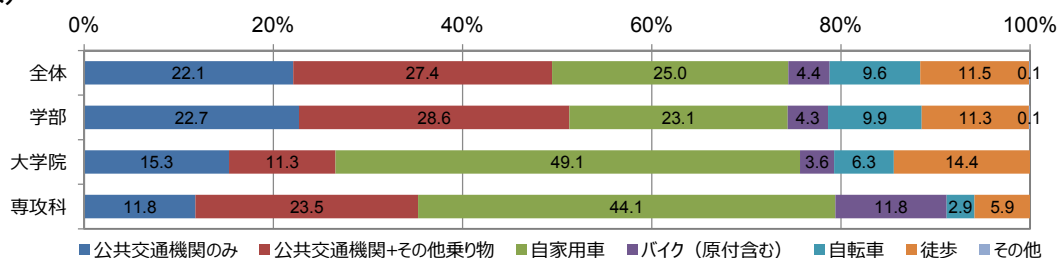
## 4) 通学状況

### <通学は公共交通機関利用者がほぼ半数。徒歩は1割>

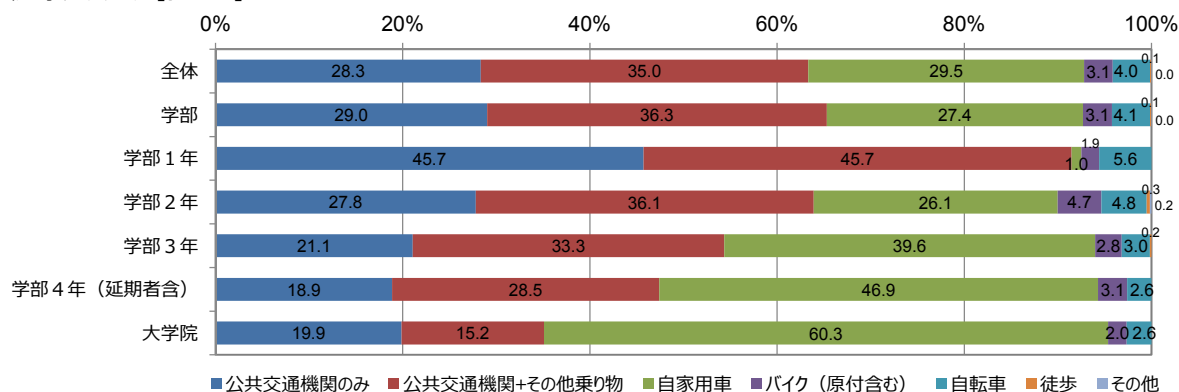


本学の通学は、自宅生が77%であることから、どうしても遠方となり、公共交通機関により通学するものが全体平均で5割と多いのが特徴です。公共交通機関だけでは通学できないものも3割近くに上り、本学の立地が決して交通の便の良いところに加えて、自宅の場所も公共交通機関へのアクセスが困難な学生も少なくないことが分かります。通学時間は、90分を超えるものが自宅生では3割以上に上ります。自動車の利用は25%で前回より微増が見いだされますが、バイク、自転車利用者もそれぞれ4%、10%おり、交通安全の懸念されることです。自宅生では通学時間の長さから、交通費、またバスの本数についての不満が8割近くに見いだされました。

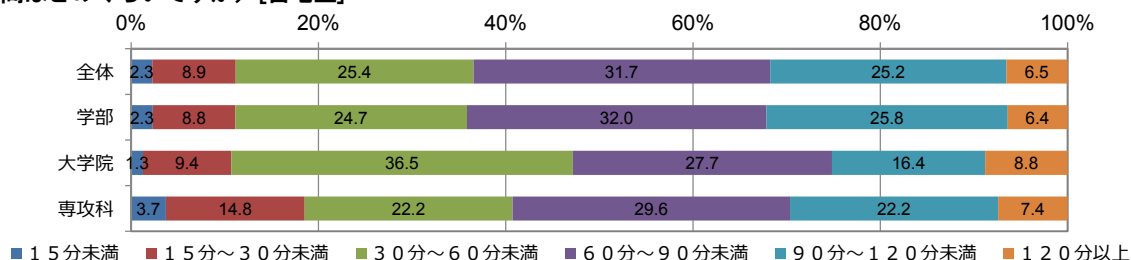
(通学方法は)



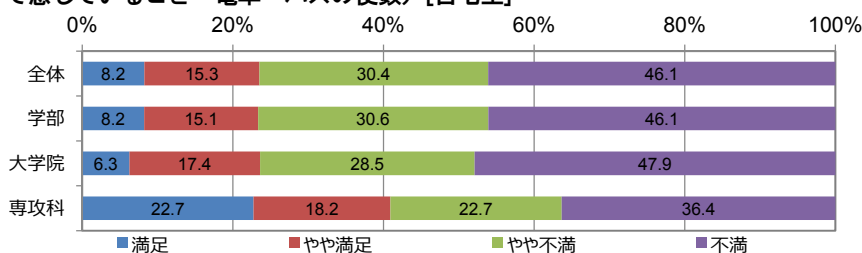
(通学方法は) [自宅生]



(通学時間はどのくらいですか) [自宅生]



(通学について感じていること—電車・バスの便数) [自宅生]



## 5) 学生支援体制について

### ○ 教員との関係

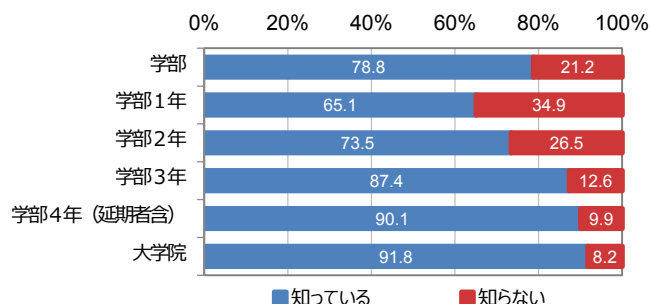
**＜教員との関係は初年次の取り組みが改善し、学年が上がるに従って次第に深まる。＞**

#### ア. 指導教員を知っていますか

指導教員について、「知っている」と回答した学生は、学部で79%に上り、前回の73%から多少の改善が見られました。特に1年生では、前回の57%から今回の65%へと「知っている」割合が高まっています。

なお、学年別では、2年生74%、3年生87%、4年生90%、大学院92%と、学年の上昇にしたがって教員に対する認知度も高まっています。

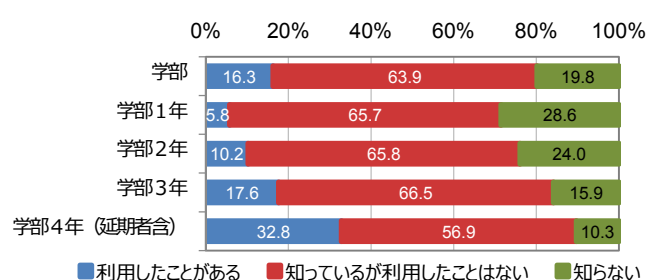
(指導教員を知っていますか)



#### イ. オフィスアワーを知っていますか

オフィスアワーについては、「知らない」と回答した学生は、学部で20%であり、前回の28%から改善が見られています。学年別では、1年生において、前回では60%の学生がオフィスアワーを「知らない」と回答していたのに対して、今回は29%まで低減しており、特に初年次からの認知度が大きく改善されていることが分かります。

(オフィスアワーを知っていますか)

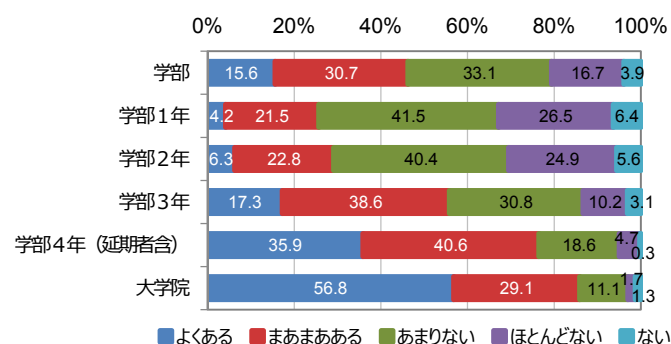


#### ウ. 本学の教員と話す機会がありますか

教員と話す機会については、「よくある」、「まあまあある」と回答した学生は、学部で46%であり、前回とほぼ同様の結果となりました。ただし、学年別で見ると、1年生では前回の14%から今回の26%へと改善が見られており、この点でも教員と交流の機会が、初年次の段階から展開されてきていることがうかがえます。

なお、全体的な傾向としては、2年生29%、3年生56%、4年生77%、大学院86%と、学年が上がるにつれて教員と話す機会も高まっています。

(本学の教員と話す機会がありますか)

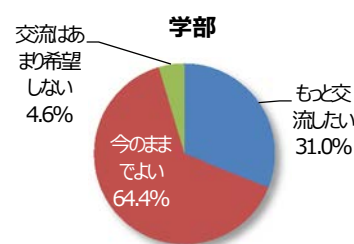


#### エ. 教員との交流を希望しますか

教員との交流については、学部で64%の学生が「今のままでよい」と答えており、必ずしも今以上の交流を希望している訳ではないようです。

しかし、「教員との関係」について、ウでみたように学年の上昇にしたがって交流の機会が増えていくことが分かります。なお、今回の調査では、従来に比べて、特に1年生での教員に対する認知度や教員との交流の機会について改善が見られたことが特徴であり、これは、最近の「初年次教育」等を通じた、初年次に関する全学的な取り組みが、しだいに浸透してきていることの表れであろうと考えられます。

(教員との交流を希望しますか)





○ 悩みと相談相手・相談機関の認知

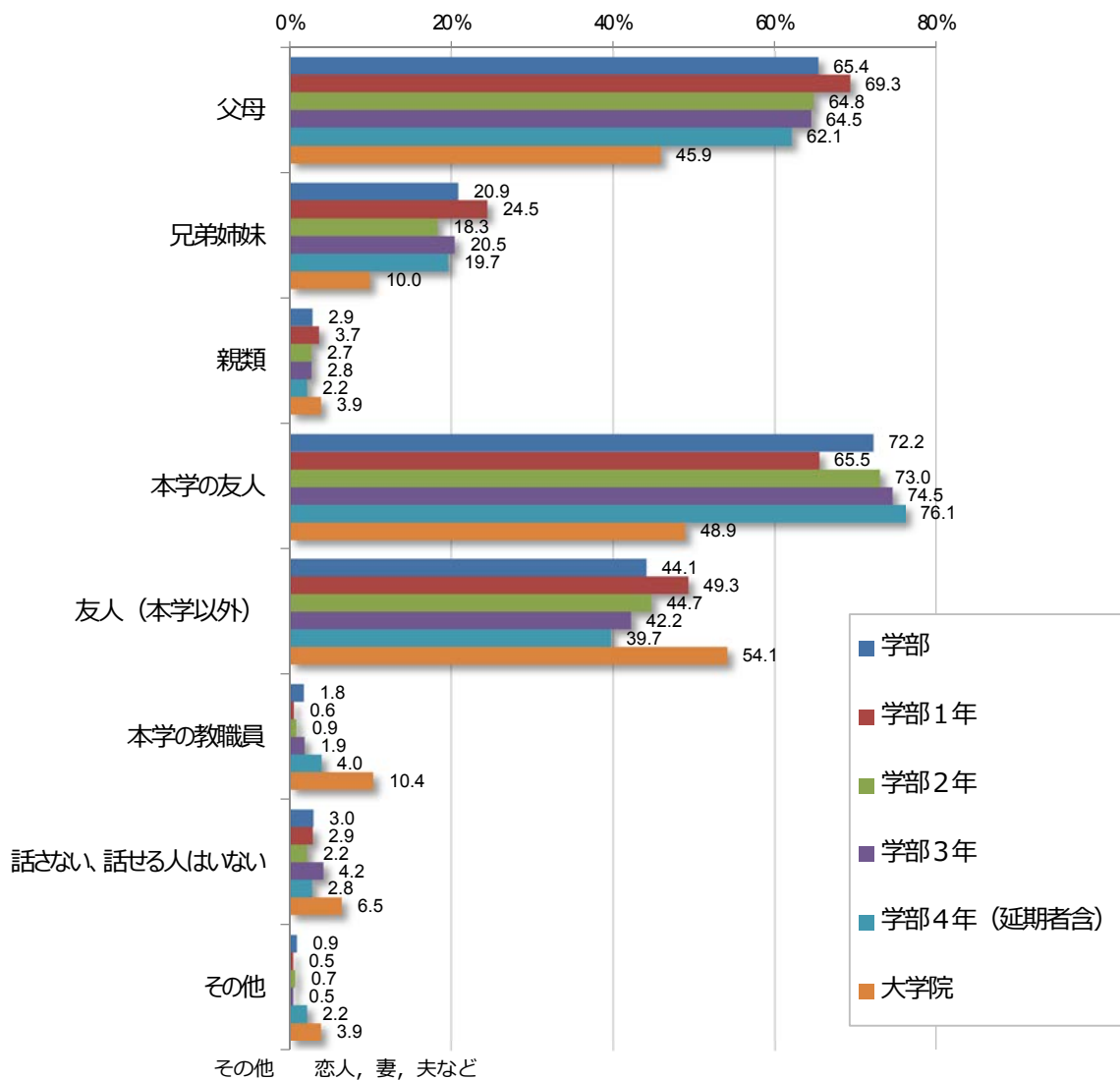
＜悩みは、就職・進路と勉学。相談相手は、本学の友人と父母。＞

オ. あなたが学生生活や家庭のことを話せる人は誰ですか

学生生活や家庭のことを話せる人については、学部では、「本学の友人」が72%と最も多く、次いで「父母」の65%、「本学以外の友人」44%となっており、これは、前回とほぼ同様の結果と言えます。

なお、大学院については、「本学以外の友人」の方が54%と最も多くなっており、次いで「本学の友人」が49%、「父母」が46%となっています。また、学部については、学年が上がるにつれて「父母」への割合が低下していき、「本学の友人」への割合が高まっていく傾向が見られます。

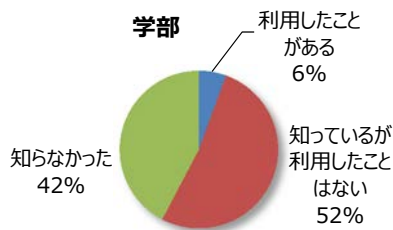
(あなたが学生生活や家庭のことを話せる人は誰ですか 注) 最大3つまで)



**カ. 本学には、学生さんが様々な相談ができる場所があります。知っていますか。**

学内での相談のできる場所については、「利用したことがある」と「知っているが利用したことはない」を合わせると、学部で 58%になるものの、一方で、「知らなかった」学生も、まだ 42%に上っていることが分かりました。これは前回の結果からも大きく変わってはいません。

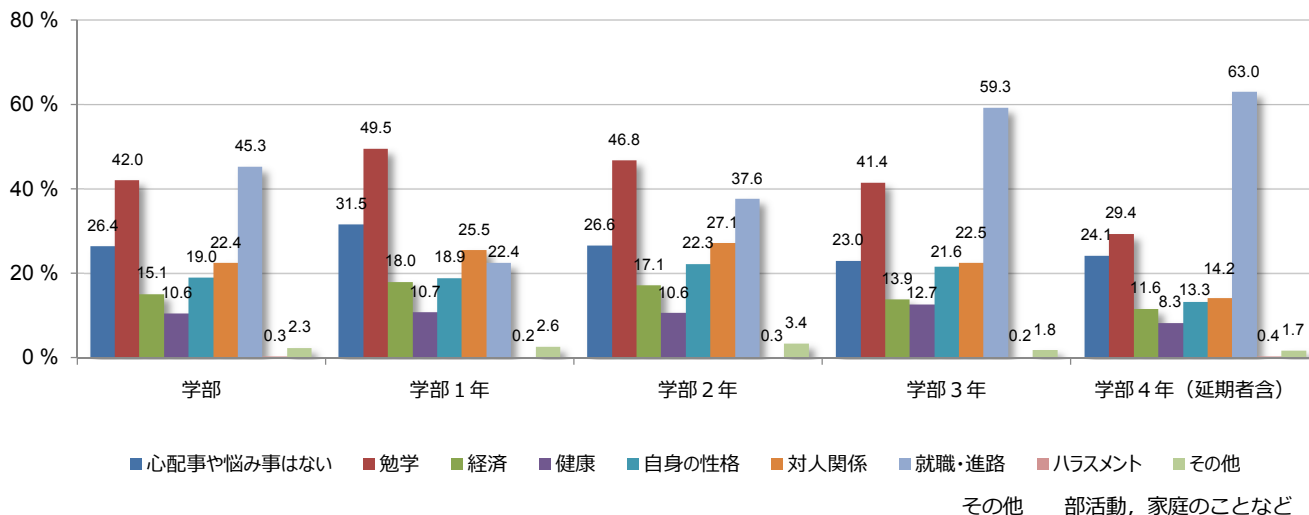
(本学には、学生さんが様々な相談ができる場所があります。知っていますか。)



**キ. 現在、抱えている心配事や悩みはありますか**

現在抱えている心配事や悩みについては、「就職・進路」が学部で 45%と最も多く、次いで「勉学」の 42%、そして「対人関係」の 22%となっており、これも、前回と同様の結果となっています。また、学部 1、2 年生では「対人関係」が相対的に高くなっています。

(現在、抱えている心配事や悩みはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。)

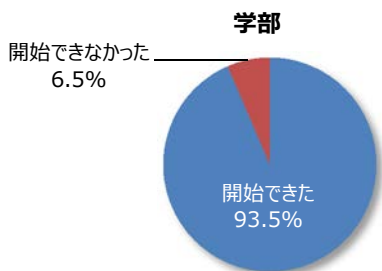


**ク. 入学時、入学ガイダンスや交流会等により大学生生活を順調に開始できましたか**

入学時の学生生活の開始については、学部で 94%の学生が順調に「開始できた」としており、これも前回と同様の結果となっています。

このように、学生が抱える悩みは、将来的な「就職・進路」と、今現在の「勉学」が中心であることが分かります。それに続くのが「対人関係」であり、特に 1～2 年生の低学年時に比較的高い傾向があるようです。このような傾向は、前回からも大きな変化はなく、この時期の学生が一般的に抱える悩みの現状が表れているものと考えられます。

(本学入学時、各種の入学ガイダンスや交流会等により大学生生活を順調に開始できましたか)



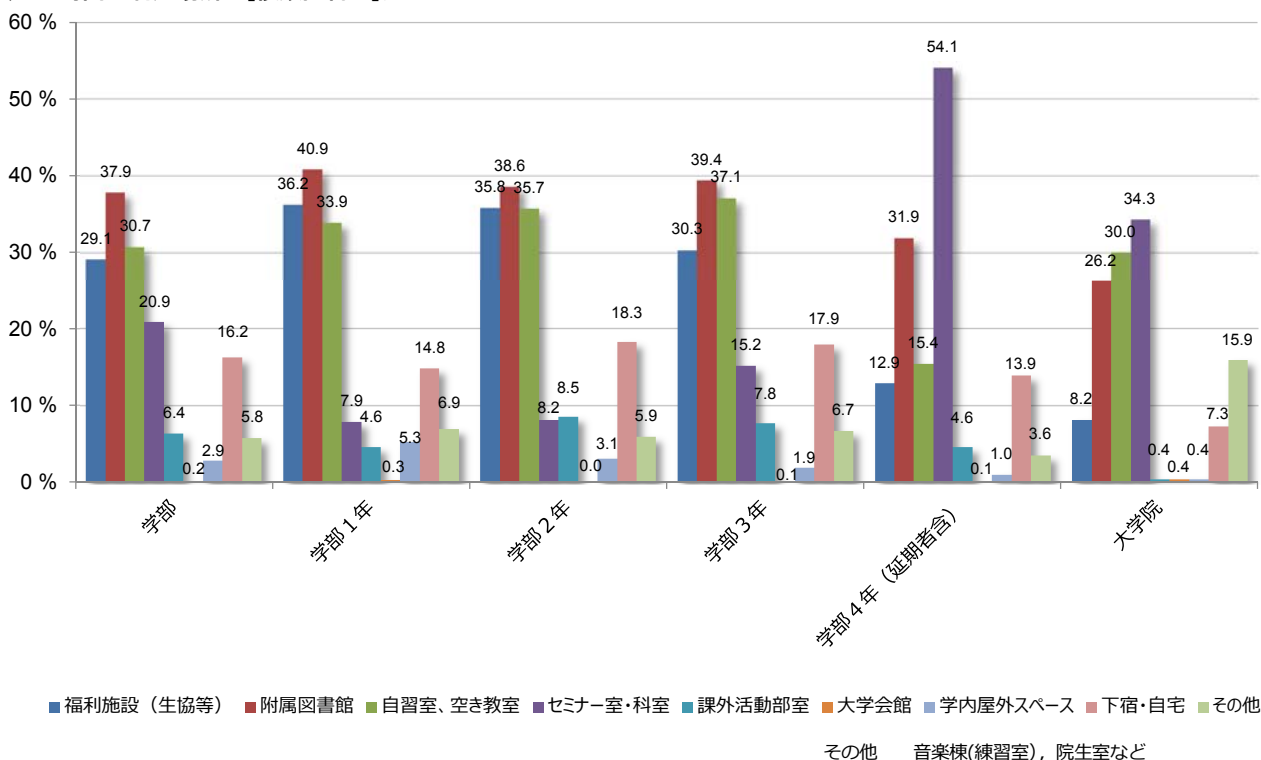
## 6) 大学の施設利用、居場所

＜学内の居場所は、1、2年は図書館。3、4年は自習室、セミナー室。＞

### ア. 空き時間の利用場所は

空き時間の利用場所については、「附属図書館」が学部で38%と最も多く、「自習室・空き教室」の31%、「福利施設」の29%と続いています。ただし、これは学年によって異なり、学部1～2年生では「附属図書館」、次いで「福利施設」の利用が多く、3年生になると「附属図書館」に次いで「自習室・空き教室」の割合の方が多くなっています。さらに、4年生、大学院になると「セミナー室・科室」の利用が最も多くなっており、次いで「附属図書館」となっています。

(空き時間の利用場所は[複数回答可])



## 7) 授業のある日の時間の使い方



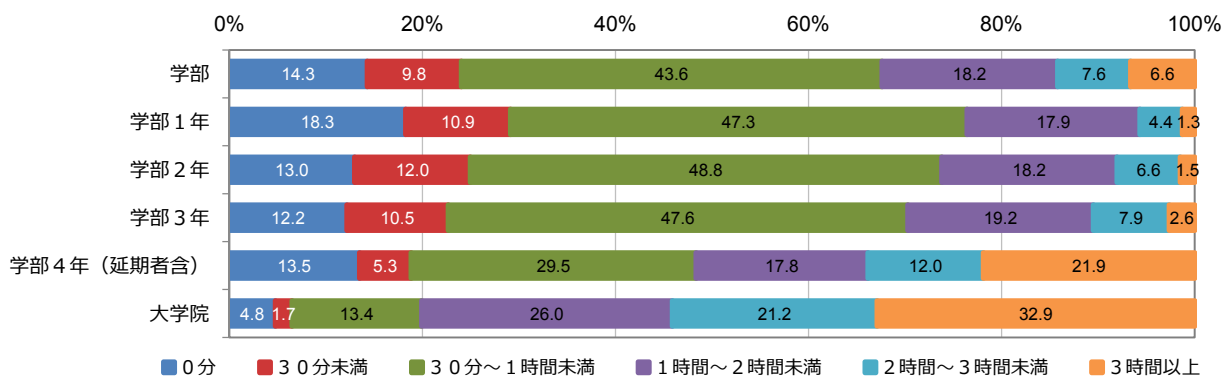
### <学習時間は、大半が1時間未満。>

#### ア. 授業以外の学習時間はどのくらいですか

授業以外での学習時間については、「30分～1時間未満」が、学部では44%と最も多く、次いで「1時間～2時間未満」の18%となっています。これは、学年によって異なっており、学部1～3年生では「30分～1時間未満」が47～49%、4年生では「30分～1時間未満」は30%、「1時間～2時間未満」が18%となり、「3時間以上」が22%となっています。そして、大学院になると「3時間以上」が33%で最も多く、次いで「1時間～2時間未満」の26%となっています。

また、「0分」、「30分未満」、「30分～1時間未満」を合わせると、学部全体では68%に上り、大半の学部生が授業以外の自主的な学習時間が1時間に満たないのが現状であることが明らかとなりました。

#### (授業以外の学習時間はどのくらいですか)



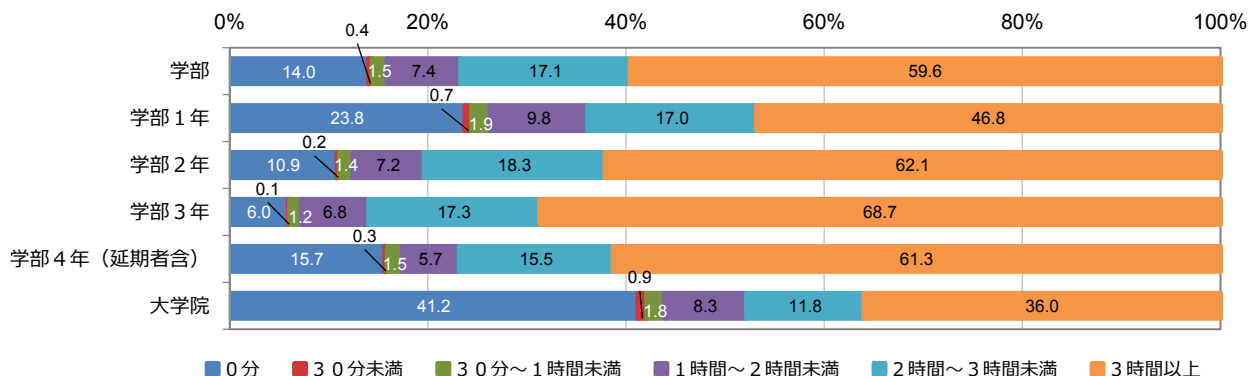
### <アルバイトは3時間以上。>

#### イ. アルバイトの時間はどのくらいですか

アルバイトの時間は、「3時間以上」が、学部で60%と最も多く、次いで「2時間～3時間未満」の17%となっています。これは、学年によって違いが見られ、1年生では「3時間以上」はまだ47%ですが、2～4年生になると60%以上に上っています。大学院では「3時間以上」は36%で、「0分」が41%と最も多くなっています。

このように、日常生活においては、大半の学部生が3時間からそれ以上の時間をアルバイトに当てているのが現状のようです。

#### (アルバイトの時間はどのくらいですか)



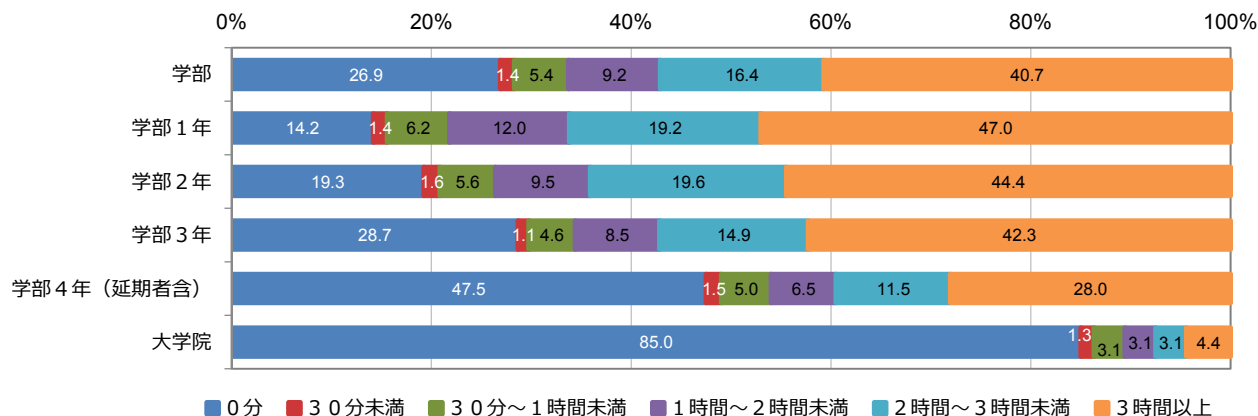


## <クラブ・サークルは、1～3年生中心で、3時間以上。>

### ウ. クラブ・サークルの時間はどのくらいですか

クラブ・サークルの時間については、「3時間以上」が、学部で41%と最も多く、次いで「0分」の27%となっています。これは、学年によって違いがあり、「3時間以上」は、1年生では47%と多く、2年生で44%、3年生になると42%と次第に割合が下がってきます。4年生では「3時間以上」は28%、「0分」が48%とかなりクラブ・サークルの時間は少なくなり、大学院では、「0分」が85%となっています。

#### (クラブ・サークルの時間はどのくらいですか)



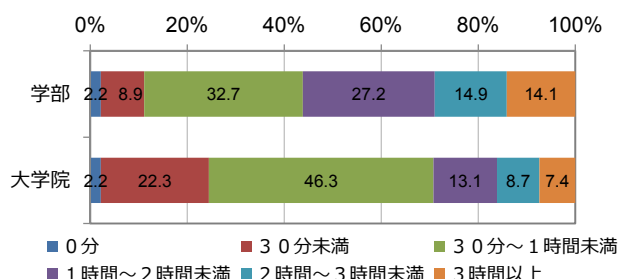
## <メールは、30分～1時間程度。>

### エ. SNS・メールの利用時間はどのくらいですか

SNS・メールの利用時間については、学部で「30分～1時間未満」が33%と最も多く、さらに「1時間～2時間未満」の利用も27%に上っています。また、大学院では「30分～1時間未満」が46%と多くなっていますが、次いで「30分未満」が22%であり、利用時間としてはやや少なくなるようです。



#### (SNS・メールの利用時間はどのくらいですか)



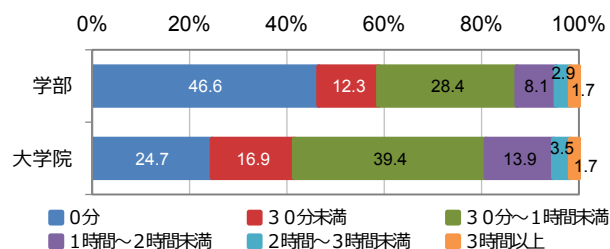
## <趣味の読書は、ごく短時間。読書離れが顕著。>

### オ. 趣味としての読書の時間はどのくらいですか

趣味としての読書時間については、学部で「0分」が、47%と最も多く、次いで「30分～1時間未満」の28%となっています。「30分未満」の12%と合わせると、学部全体で87%の学生の読書時間が、1時間未満となっています。なお、大学院では「30分～1時間未満」が39%と、読書時間は多少多くなっています。



#### (趣味としての読書の時間はどのくらいですか)



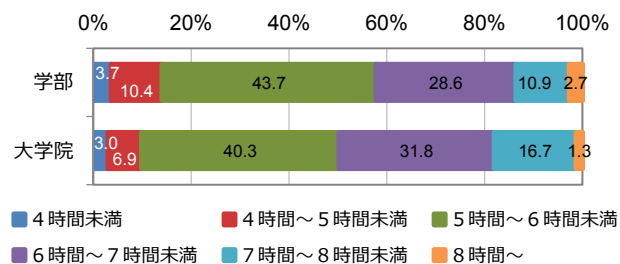
## <睡眠は6時間前後。>

### カ. 睡眠時間はどれくらいですか

睡眠時間については、学部で「5時間～6時間未満」が、44%(大学院は40%)と最も多く、次いで「6時間～7時間未満」の29%(大学院は32%)となっています。学年による違いはあまり見られません。



(睡眠時間はどれくらいですか)



このように、授業のある日常の時間の使い方については、授業以外の自主的な学習や読書の時間はごく短時間に止まっている一方で、クラブ・サークルとアルバイトにその比重があり、それぞれに3時間からそれ以上の時間を当てているのが、生活の実態と言えます。



## 8) 将来の進路

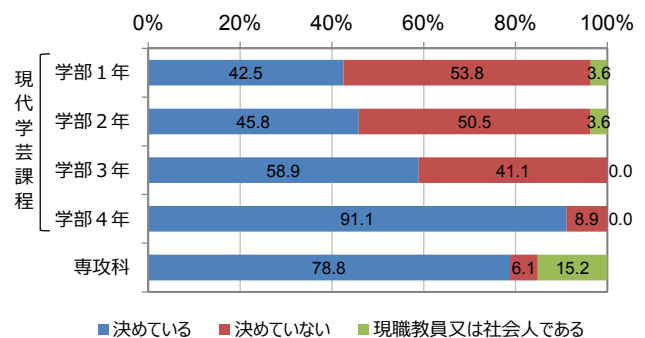
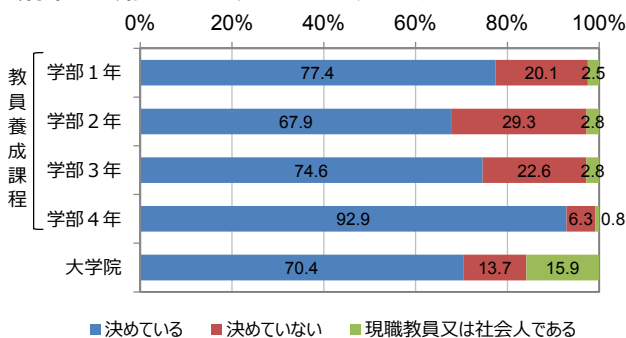
### <進路は、教員、公務員>



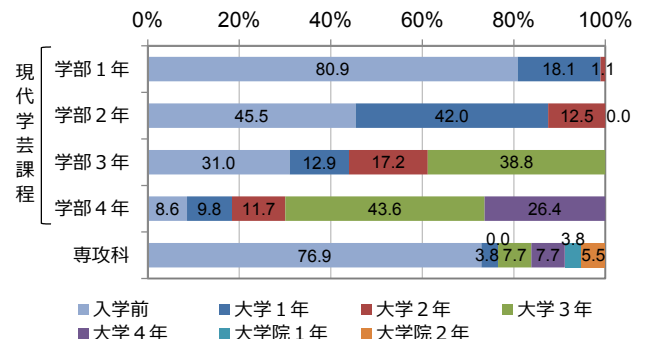
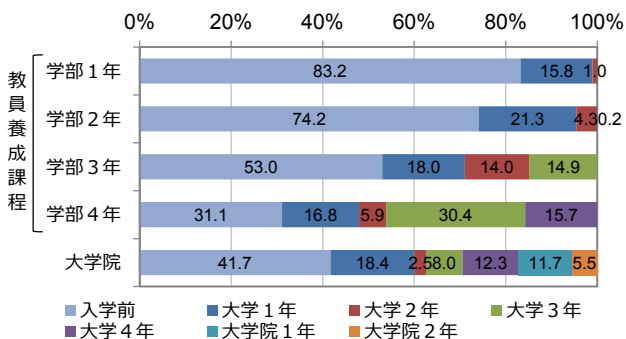
将来の進路を、教員養成課程では、入学時から高い率で決めており、教育養成を中心とした大学の特徴があります。卒業を前にした4年生で見ると、90%以上が進路を決めています、その決定時期は、入学時からが多い教員養成課程と、3年・4年で70%となっている現代学芸課程の違いがみられます。

進路の希望は、教員養成課程の大多数が、教育・保育職を希望するのは、入学時からの進路希望と関係する結果でしょう。現代学芸課程は、4年生で、約60%が、公務員、企業を希望しており、進路決定時期を考えると、学年進行を考えたきめ細かなキャリア支援が必要です。

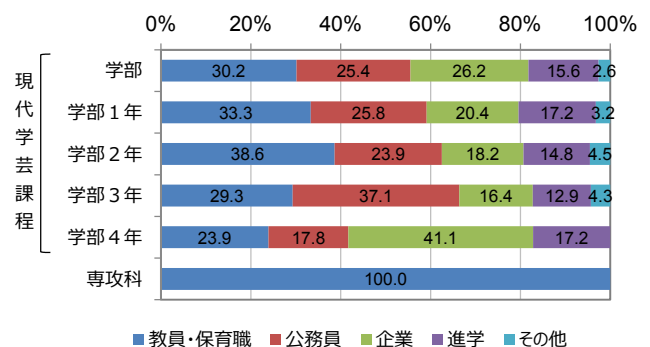
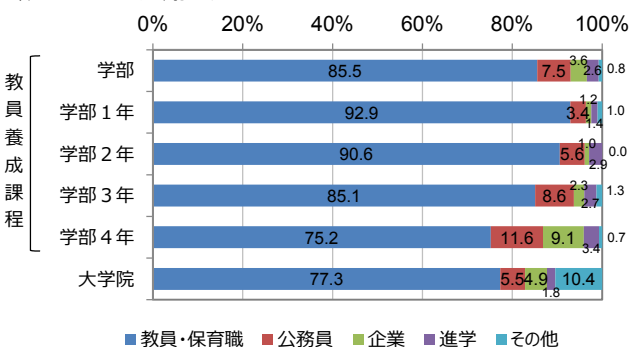
#### (将来の進路について決めていますか?)



#### (いつ頃決めましたか)



#### (決めている進路は)



その他 スクールカウンセラー, 臨床心理士など

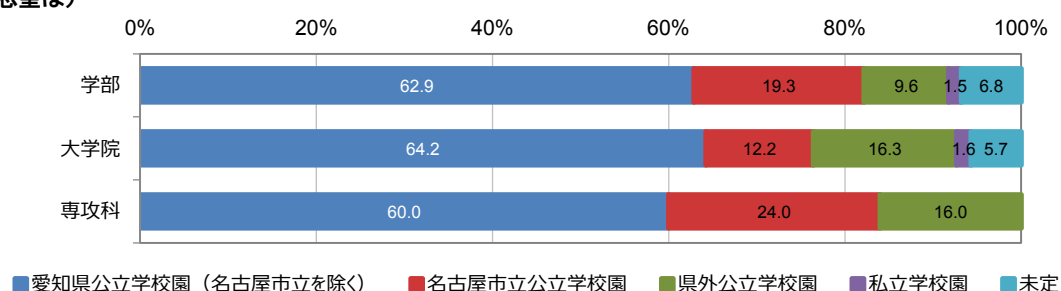
## <就職希望地は、愛知県、名古屋市>

教員を希望する学生は、愛知県公立学校園への進路希望が60%を超えています。名古屋市公立学校園を含めると、愛知県内での教員希望が学部で82%となっています。他の教員養成単科大学と比較すると、県内での教員希望の比率が高いことに特徴があります。

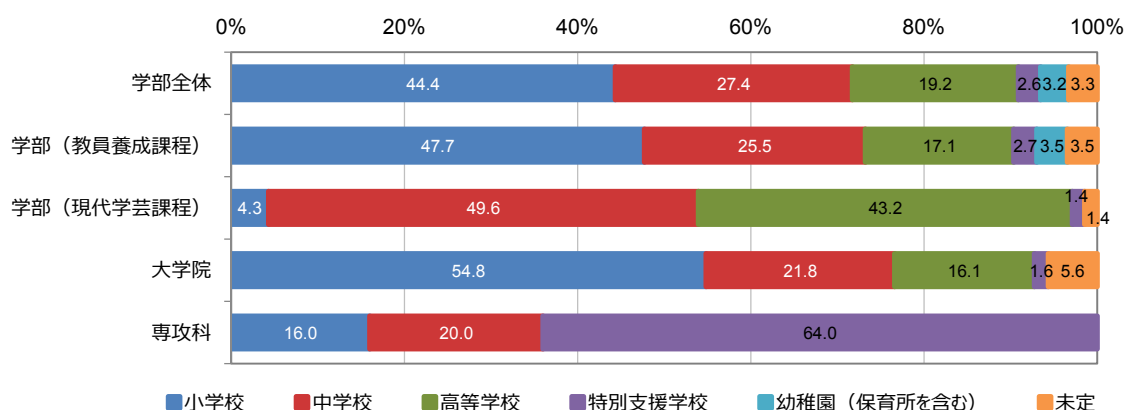
校種別では、小学校45%、中学校27%、高等学校19%の順で、特別支援学校と幼稚園は、それぞれ3%となります。教員養成課程では、小学校、中学校希望者が73%、高等学校も17%になっています。現代学芸課程では、中学校、高等学校希望者が93%にのぼっています。中学校、高等学校への進路に対する支援が必要です。

就職・進学希望者の県内希望が66%です。教員希望者だけでなく、地元志向が強いことがうかがえます。

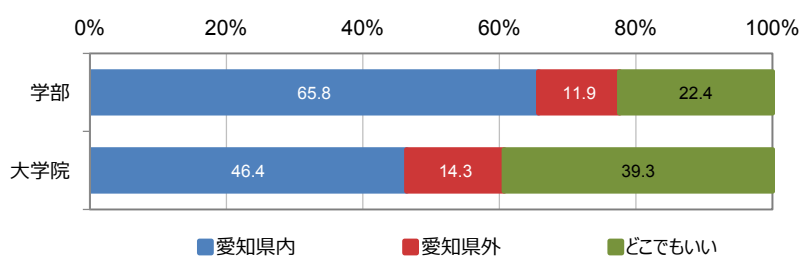
### (第一志望は)



### (校種の希望は)



### (就職・進学する場合、地域の希望は)

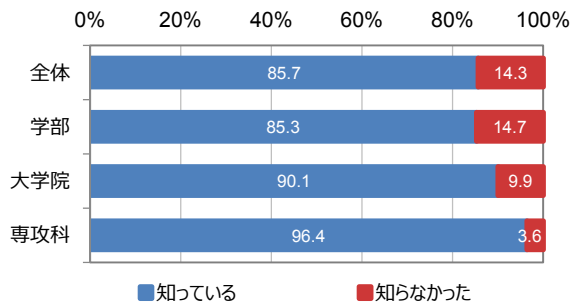




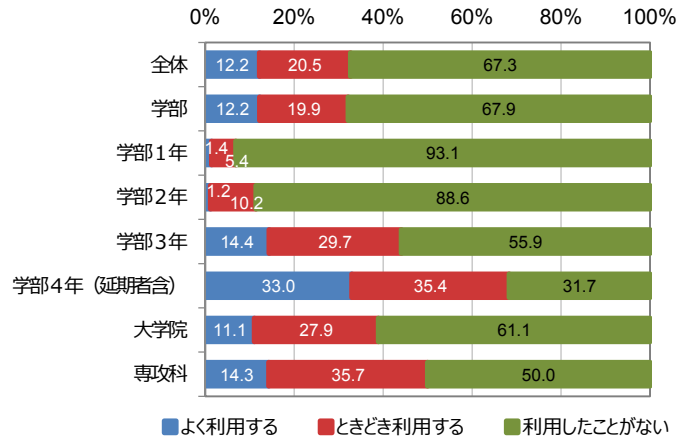
## <キャリア支援の活用を>

大学としてのキャリア支援を 86%の学生が知っているとは回答していますが、利用率は 33%にとどまっています。学部 4 年生でも利用したことがない学生が 30%以上います。キャリア支援の広報も必要ですが、知っている学生であっても利用しないことを考えると、進路に対する学生の考え方にも問題があると思われます。利用の内容は、ガイダンスが 79%ですが、相談の利用は 35%となっています。より有意義な利用を進めることが望まれます。

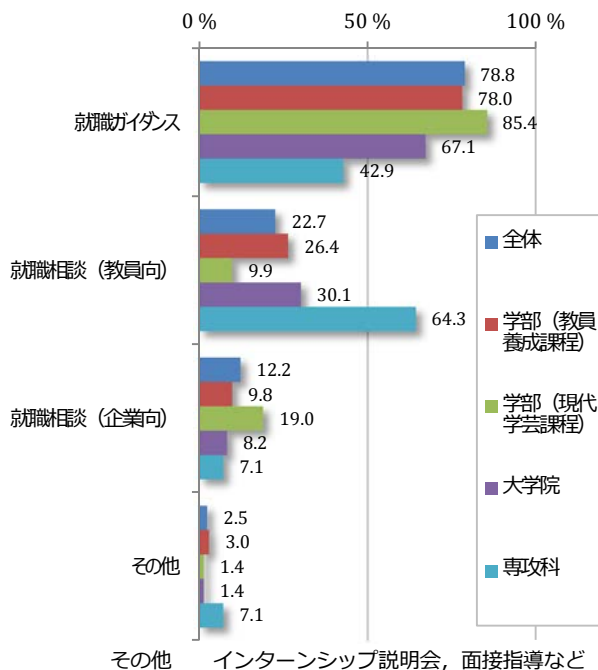
(本学ではキャリア支援課就職活動の支援を行っていますか？が知っていますか？)



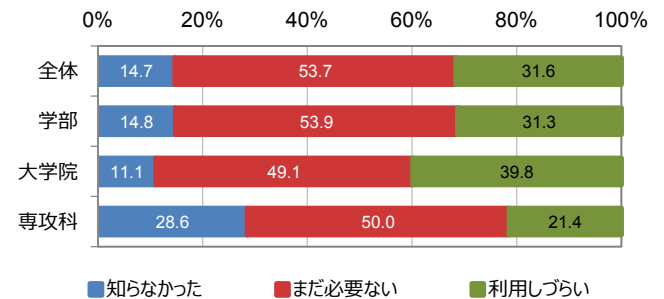
(就職ガイダンスや就職相談を利用したことがありますか？)



(利用したことがある方へ…どんなことで利用しましたか？)



(利用したことがない方へ…その理由は)



## 9) 課外活動

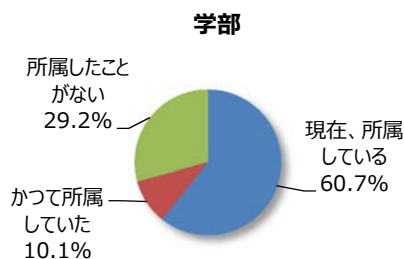
### <高い課外活動団体加入率>

課外活動団体に加入している学部学生の割合は61%、かつて加入していた学生の割合は10%です。前回の調査時には、課外活動団体に加入している学部学生の割合が64%であり、少し減少はしていますが、依然として高い水準を維持しています。学生が加入している団体の内訳は、文化系34%、体育系60%、両方への加入が6%です。体育系団体に加入している学生の割合が文化系団体の2倍近くになっていることは、教員養成系大学の特徴でしょうか。活動状況については、ほとんど毎日が15%、週に3-4回が23%、週に1-2回が49%、月に1-2回が13%です。学部学生にとって、課外活動が大学生活における重要な位置を占めていることがうかがえます。

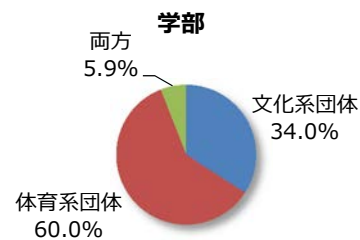
加入の動機については、「教養、趣味、特技の向上」、「友人を得るため」、「団体活動に魅力を感じて」の順になっていますが、その他に「健康のために」や「入学時の勧誘」など、さまざまな動機も挙げられています。一方、課外活動団体に所属したことがない学生(29%)について、その理由を尋ねたところ、「なんとなく」や「束縛されたくない」、「自分に適した団体がない」などの理由があげられていました。

全体として、教養や趣味の共有、特技の向上、友人関係の構築などの目的で、多くの学部学生が課外活動を有効に活用していると考えられます。

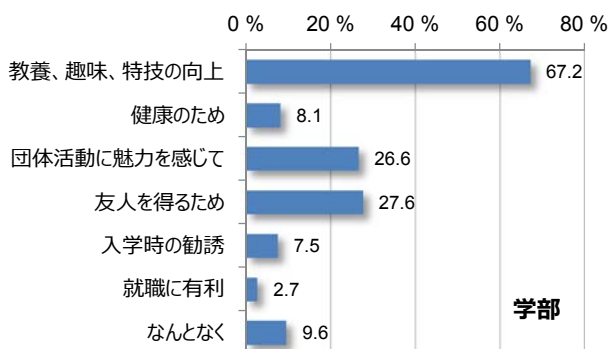
(本学の課外活動団体に所属していますか。)



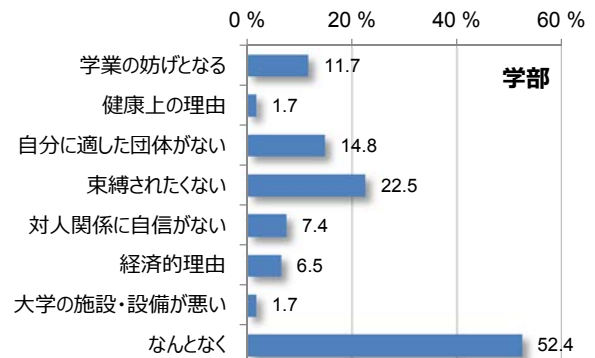
(所属している団体の区分をお答えください。)



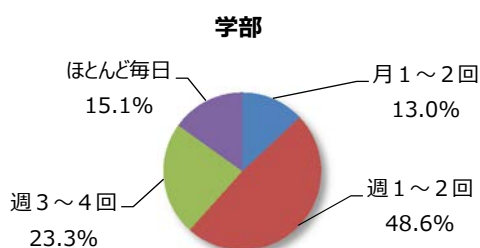
(所属したきっかけをお答えください。)  
[最大2つまで選択可]



(所属していない理由をお答えください。)  
[最大2つまで選択可]



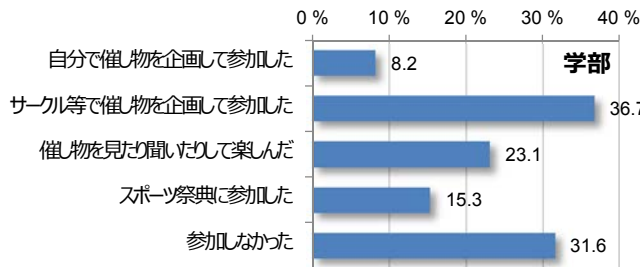
(活動状況をお答えください。)



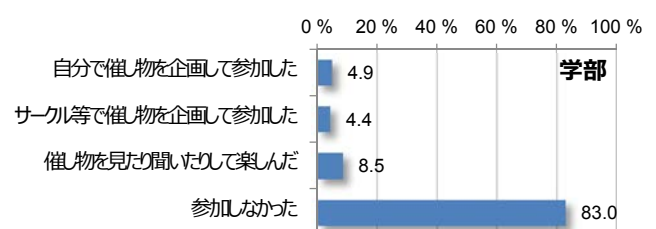
## <大学生は「まつり」離れか？>

大学祭に参加した学生は学部学生の68%であり、前回の調査より6%減少しています。子どもまつりについては参加が17%(前回調査では26%)であり、大学祭に比べて参加者がかなり少ないことがわかります。参加しなかった主な理由は、大学祭では「興味がない」が51%、「部活・合宿があった」が25%であり、子どもまつりでは「興味がない」が67%でした。前回調査に比べて参加者が減少していることは両方のまつりに共通の傾向であり、学生にとって大学での「まつり」の位置付けが変化しつつあることの現れでしょうか。今後、開催期間が短縮される可能性があることから、学生には大学祭、子どもまつりの意義を再確認してもらうことを期待します。

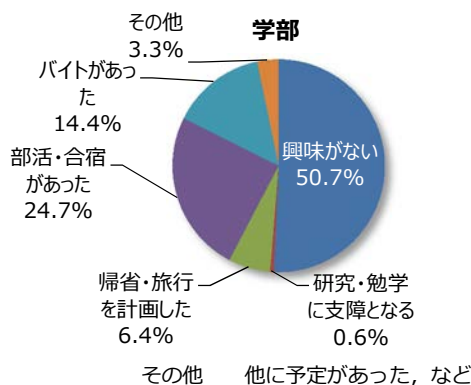
(大学祭に参加しましたか？[複数回答可])



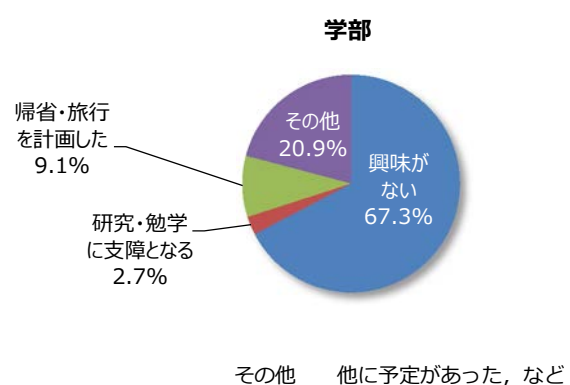
(子どもまつりに参加しましたか？[複数回答可])



(大学祭に参加しなかった理由)



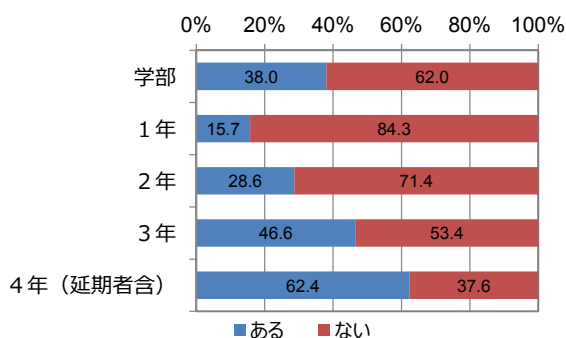
(子ども祭に参加しなかった理由)



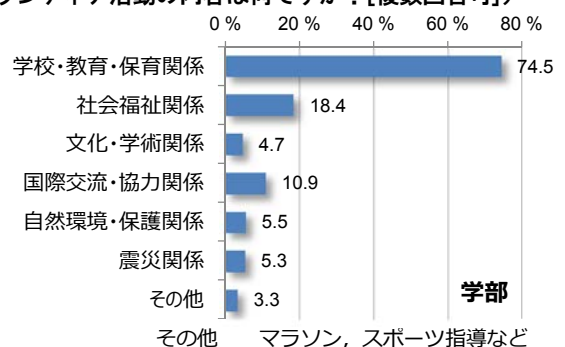
## <意外に少ないボランティア経験者>

ボランティア活動については、大学入学後にボランティア活動の経験がある学部学生の割合が38%であり、その内容の4分の3は学校・教育関係でした。ボランティア活動への参加を促す取り組みにより、経験者の割合を増やす余地があるものと期待されます。

(入学後ボランティア活動の経験はありますか？)



(ボランティア活動の内容は何ですか？[複数回答可])



## 10) 施設

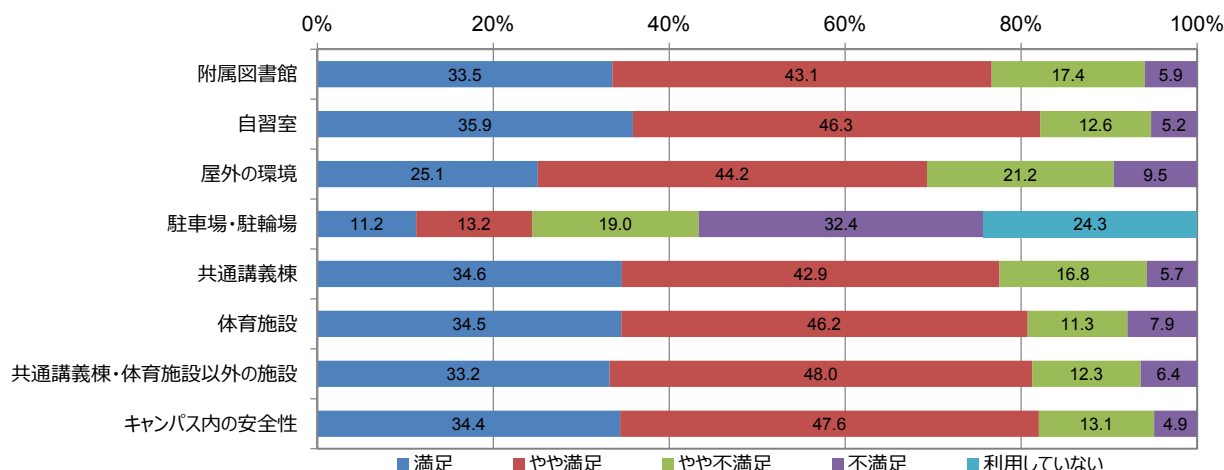
### <駐車場・駐輪場以外の施設は概ね70%以上が満足>

前回は7つの項目(屋外の環境、駐車場・駐輪場、共通講義棟(講義室・トイレ等)、体育施設(体育館・グラウンド等)、共通講義棟・体育施設以外の施設、キャンパス内の安全性、キャンパス内の全面禁煙)を調査しました。今回は附属図書館、自習室に関する調査を追加し、キャンパス内の全面禁煙(前回の調査では86%が概ね満足と回答)に関する調査を削除し、8つの項目を調査しました。

今回の調査では、附属図書館、自習室、屋外の環境、共通講義棟(講義室・トイレ等)、体育施設(体育館・グラウンド等)、共通講義棟・体育施設以外の施設、キャンパス内の安全性などの7項目については、ほぼ前回と同様に概ね70%以上が「満足」「やや満足」と回答しています。しかし、駐車場・駐輪場に関する満足度は「満足」「やや満足」が前回67%でありましたが、今回は「利用していない」という回答を除いた利用者の満足度は32%(利用者の満足度)と大きく減少しました。

自由記述につきましては後のページにまとめて記載してありますように、様々な意見が寄せられています。講義室のエアコン、学内のインターネット環境、バリアフリー化、リフレッシュスペース(授業時間外に過ごせる場所)、科室・ゼミ室、食事・喫茶スペース、体育施設やグラウンド、共通講義棟(学生のもち使用する場所)、自然科学棟・音楽棟、クラブ棟の施設整備に関する意見、また学内の整備の順番についての意見がありました。特に駐車場・駐輪場については非常に厳しい意見や疑問、説明を求める要望が出されています。また、こうしたアンケート調査自体を歓迎する意見もあり、学内の施設や整備に対して、学生からの視点や意見を尊重・反映してほしいとの声がありました。

#### (キャンパス内施設全般について)



#### キャンパス内施設全般について満足していないこと(自由記述)

##### 図書館で満足していないこととして多いもの

- 蔵書関係の不満(蔵書数の増、一般小説の増、新刊本の増など) 176
- 館内温度の不満(空調の効きが悪い、使える時期が短いなど) 144
- 開館時間の不満 37
- 飲食スペースの不満 35

##### 自習室で満足していないこととして多いもの

- 自由に利用できないこと(の)不満  
(教室数が少ない、授業やサークル優先で使えない時がある) 145
- 快適性が悪いこと(の)不満(暑い、狭い、臭いなど) 130
- 利用マナーが悪いこと(の)不満 65



### 屋外環境で満足していないこととして多いもの

- 自然環境への不満(虫やハチが多い、坂が多いなど) 177
- 休憩スペースの少なさの不満(日陰の休憩スペースが欲しいなど) 89
- 管理が出来ていないことへの不満(汚い、整備されていない自然が多いなど) 42
- 建物間の移動の不満(遠い、屋根付きの通路がないなど) 31

### 駐車場・駐輪場で満足していないこととして多いもの

- 駐車場を駐輪場に転換した(P5 駐輪場) ことへの不満(自動車利用者からは利用状況が悪く駐車場が減ったこと、自転車利用者からは遠く使いづらいこと) 662
- 駐車場が足りないことへの不満 227
- 駐輪場環境が悪いことへの不満(教室から遠い、坂で停めにくい、ドミノ倒しになる、屋根が付いていない、狭くて汚い、蜘蛛の巣が張っているなど) 176

### 共通講義棟で満足していないこととして多いもの

- 清掃・利用状況の不満(汚い、臭うなど) 197
- トイレに対する不満(数が少ない、2階の男子トイレが1カ所しかない、洋式が少ない、ジェットタオルの使用禁止など) 127
- 室内温度の不満(温度を個別管理に変更、使える時期、換気など) 101

### 体育施設で満足していないこととして多いもの

- 体育館の整備に対する不満(雨の日に床が滑る、暑いなど) 98
- グラウンドコンディションが悪いことへの不満(芝生が整備されていない、でこぼこ、怪我の恐れがあるなど) 94

### 共通棟・体育施設以外の施設で満足していないこととして多いもの

- 音楽棟に対する不満(空調、ピアノの調律など) 56
- 福利施設利用の不満(混雑、営業時間など) 47
- 自然科学棟の老朽化の不満 39



## 11) 大学に期待すること

### ＜学生の期待は、「キャンパスの整備・美化」「福利施設(食堂・売店)の充実」「駐車場・駐輪場の整備・拡充」＞

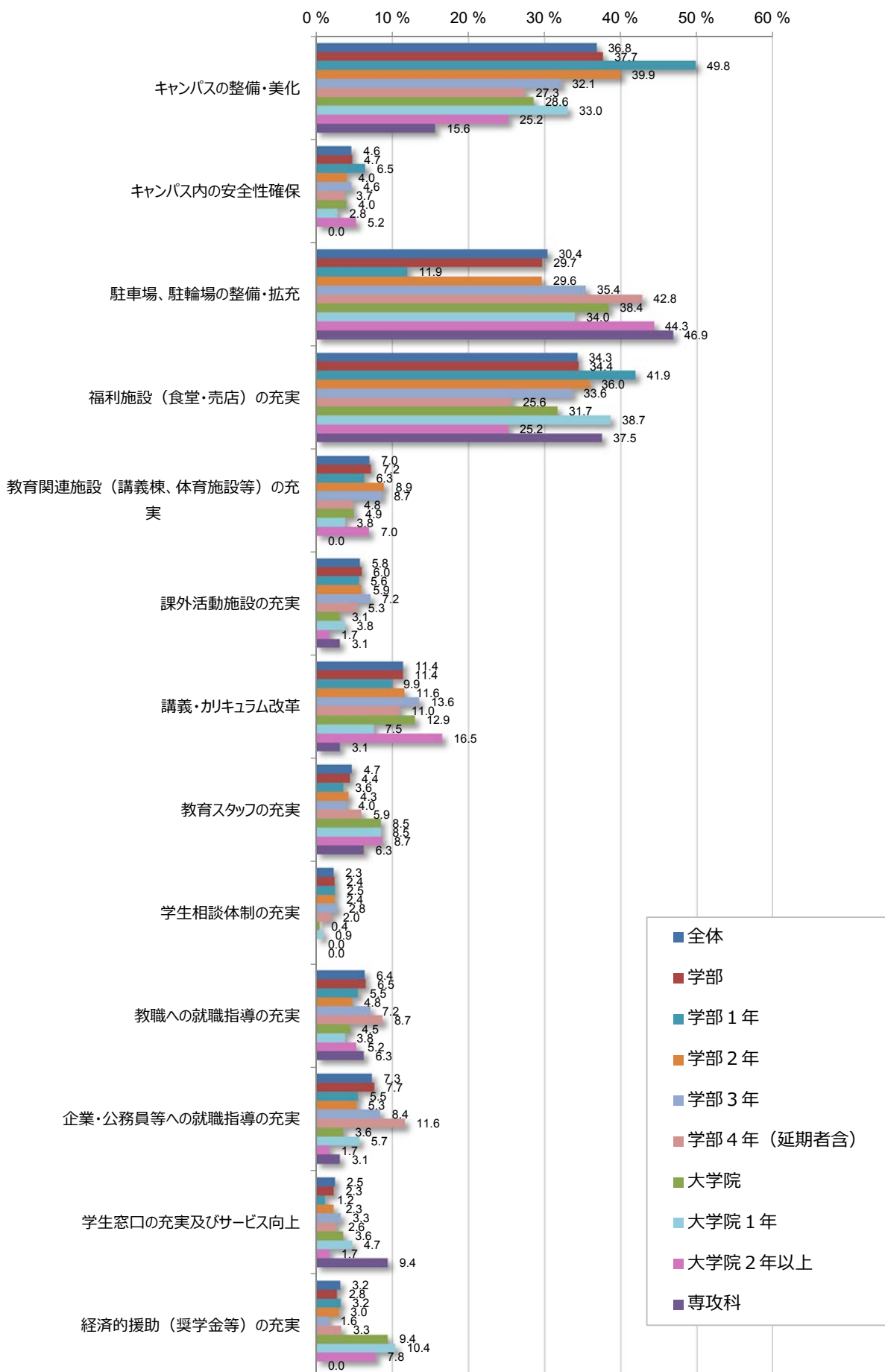
今後、大学が優先的に取り組んでほしいこととしては、「キャンパスの整備・美化」37%、「福利施設(食堂・売店)の充実」34%、「駐車場・駐輪場の整備・拡充」30%の3項目に集中しています(2つまで選択)。特に学部1年生は「整備・美化」50%、「福利施設」42%と高く、入学生の期待に本学の状況が応えられていない様子うかがえます。同様に大学院1年生も「福利施設」が39%と高く、学生が日々多く利用する施設・サービスへの不満が目立ちます。

「駐輪場・駐車場」への期待は学年の上昇に伴って増加し、学部4年は43%、大学院2年以上は44%に達します。本学のアクセスの不便さや、研究で遅くなる卒業・修了学年の状況を考えれば、学生の視点に立った整備・拡充が望まれます。

その他の期待は、「講義・カリキュラム改革」11%以外はいずれも10%未満と低いですが、大学院1年生で「経済的援助(奨学金等)の充実」が10%と高くなっており、大学院生が安心して勉学・研究に取り組めるような経済的支援の充実が求められています。



(今後、愛知教育大学に優先的に取り組んでほしいことは何でしょうか?)





## 12) 大学への要望・期待(自由記述) から

記述された 596 件の意見を大別すると、「施設・環境(駐輪・駐車場以外)」161 件、「駐輪・駐車場」105 件のように施設関係の意見が顕著に多く、続いて「授業・実習関連」90 件、「通学」60 件、「教員・職員」53 件、「生協」29 件、「進路関係」20 件の順でした。「その他」は 78 件でした。寄せられた具体的な意見は表のとおりです。駐車場不足や授業運営、通学困難さに対する厳しい意見がみられる一方、学生自身のマナーにも批判がみられます。

項目・件数	主な意見項目	件数	主な具体的意見
<b>施設</b> 161 (27.0%)	空調・エアコン	24	集中管理の廃止、時期ではなく気温を基準としての使用許可、土日・朝の使用の容認、音楽棟エアコンの修理
	グラウンドの整備	22	でこぼこして危険、芝の整備
	食堂・売店等の新設	21	コンビニ、カフェ、リフレッシュスペース、スターバックス、マクドナルド、吉野家、寿がきや、ミスタードーナツ、自販機の増設、ATMの種類追加、医薬品の販売
	学生が多く利用する建物の美化	20	自然科学棟、人文情報棟、人文棟、演習棟、第一共通棟 106 の臭い
	図書館の充実	8	蔵書の充実(心理学、人文系、雑誌)、土日祝の開館時間の延長、飲食ができる場所の拡大
	バリアフリー化 ゴミ箱の増設	4 4	
<b>駐車場・駐輪場</b> 105 (17.6%)	P5の駐輪場を駐車場に戻す	67	P5の使用状況を見てほしい、無駄な物は作らないでほしい、学生に意見を聞いてほしい
	駐車場の増設	24	
	駐輪場の増設	11	適切な場所での設置、図書館付近、第一共通棟の近辺、保健管理センター横、坂の下、教務課前、屋根付き
<b>授業・教務</b> 90 (15.1%)	実践的な授業を増やす(増加を希望する科目内容)	22	指導案作成方法、授業実践方法、教職関係科目、小学校全科、専門科目、発達障害、保護者対応、教員の実態、各年齢の子どもの特徴、お礼状の書き方、英語コミュニケーション、他大学との連携講座
	ためにならない授業の削減	22	内容・教授法・難易度を考慮してほしい(リテラシー科目、教科学、〇〇科研究、教員の自慢話、簡単すぎる授業)
	クラス指定授業の削減	12	希望する教員の授業を受けたい、専攻を越えた自由な科目選択を(共通科目)、同一科目名でも教員により内容・評価が違い過ぎる
	カリキュラム・時間割の改善	11	キャップ制の廃止、水曜午後授業を入れない、1年よりボランティア参加を、前期は7月末までに授業終了を、学科によって格差が大きい、専門科目と副免科目が時間割上で重複、3年生までで単位をほとんど取得できるように
	授業日程等の連絡の迅速化	8	介護等体験、実習事前指導日、集中講義日、補講日
	ネット利用の改善	4	取得予定免許に対する自己の取得単位数の確認、学内携帯メールに添付機能を
	公欠制度の新設	3	実習関連での欠席、部活での欠席
	現代学芸課程の継続希望	8	臨床福祉心理、造形文化、日本語教育、自然科学
<b>通学</b> 60 (10.1%)	バスの増便を	20	バスが混む(知立駅 8:20~8:45 に 30 便を希望、水曜日・平日帰宅時間の増便)、日進-大学間の増便、豊明-大学間のバス路線の新設
	バス料金が高い	14	知立-大学間
	最寄駅が遠くて不便	13	大学に来る気がなくなる、暴風警報解除後 2 時間では混雑もあり授業に間に合わない
	スクールバスの運行を	8	
	1年からの車通学を	3	
<b>教員・職員</b> 53 (8.9%)	教務課・学生支援課の態度改善	23	無愛想(10)、不親切、威圧的・高圧的、ため口、仕事が遅い、大人対大人の対応を
	教員の問題	9	教える能力が低い教員の解雇を、教員に対する学生による評価を、授業がひどい
	昼休み時にも事務窓口対応を	9	教務課・学生支援課の昼休憩時間を学生の昼休み時間とずらしてほしい
	部局間の連携、課内の情報共有	3	課員により対応が異なる
	施設管理の一元化を	2	教室・施設の予約を一か所で管理してほしい
<b>生協</b> 29 (4.9%)	食堂の営業時間の延長を	7	20 時頃まで営業してほしい
	食堂・売店の料金値下げを	5	
	食堂の混雑の緩和を	4	座席の増設
	食堂のメニューの改善を	4	バリエーションが少ない
	売店の品揃えへの希望	5	新聞、卵、生クリーム、生鮮食料品、B4用紙 100 枚以下単位での販売
	設備	3	コピー機の増設、現金で使用できるコピー機
<b>進路・就職</b> 20 (3.3%)	企業・公務員対策の充実	8	面接、論文
	積極的な情報提供・支援	6	
	県外の教採受験者への支援	3	
	大学院関係の支援	2	進学のサポート、教育学研究科在学生の教採免除科目の創設
<b>その他</b> 78 (13.1%)	学生のマナーが悪い	15	運転マナー(速度超過、危険運転、歩道を走行する原付、迷惑駐車)、騒がしい、美化意識の欠如、科室の勝手な使用
	学生との対話	4	決める時は学生側にも説明を
	大学祭の日程削減反対	3	4 日間の開催を希望
	留学支援	2	奨学制度の拡充、提携校の拡大
	その他	49	無償奨学金の拡充、部活動への援助拡大、障害学生支援部署の新設、専攻による経済格差の解消、ハチの駆除、証明書発行機の利用可能時間の拡大、外部カウンセラーの複数配置、飲食禁止教室の明示、授業中のアンケート反対



## 13)総括

今回の調査は回収率が 84.3%と高く、全ての専攻・選修から回答を得ることができました。その点で、在学学生の意識を網羅するデータになったと考えます。今回の調査を通して明らかになった学生の意識や実態の特徴をまとめると以下の通りです。

### ○経済状況

大学院生の36%が家庭からの支援がなく授業料も自分で負担していることがわかりました。大学院生は、学部生と異なって授業以外の学習時間も長く、十分なアルバイト時間も確保しにくい状況が結果から見えてきます。健康的な生活を保障し安心して大学院に進学できるようにするためにも、大学院生を対象とした何らかの経済支援が必要と言えます。

### ○通学状況

自宅からの通学生が77%と多く、公共交通機関を利用する自宅学部生は65%、通学時間が90分以上になる自宅学部生も32%に上りました。このことは、交通費や心身への負担の大きさを招き8割近くの自宅生から不満が出されています。アクセスの利便性を図るためにも、朝夕のバスの増便や日進駅行き最終便の時間延長等の改善が考えられます。

また、学年の上昇とともに自動車通学が増加し自宅生の4年生では5割弱、大学院生では6割に達しません。駐車場不足と駐輪場設置場所に対する不満感は全学生の51%、利用者に限れば68%に達しており、限られた敷地内においてどのような対応が可能か、今後更なる検討が必要でしょう。

### ○学習状況

授業以外の学習時間は、学部生の68%が1時間未満であることが明らかになりました。このことは、日頃の授業の改善の必要性を示唆していると言えます。学生にとって知的好奇心や学習意欲を喚起する内容になっているか、学生の主体的・能動的な学修を支援できているか、そのような環境が整備できているか、多面的な検討が必要でしょう。学生からは、例えば授業実践方法や指導案作成方法、発達障害、保護者対応等、より実践的な授業内容を求める意見が出されています。また、キャップ制の廃止や学生が主体的に科目選択できる体制を求める意見もあります。カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーと学生のニーズを踏まえた、不断の授業改善・教育の質的改善が求められていると言えます。

### ○学生支援体制の状況

前回の調査に比較すると、学部1年生において指導教員やオフィスアワーへの認知度が高まり、教員との交流の機会が増えたことがわかりました。これは初年次教育や新入生オリエンテーション等の成果の表れと考えられます。しかし、指導教員を知らないとする学部1年生もまだ3割以上おり、勉学に対する心配事・悩みを1年生の5割が感じていることや2割強が下宿・寮での新生活を始めていることを考えれば、指導教員との適度な交流による大学生活への適応支援が必要であると言えます。

また、学内での学生相談窓口を知らない学部生が42%もおり、窓口を仲介する教職員の役割は大きいと言えます。学生の動向に注意を向け、必要に応じて個人面談を実施するなどの機会を捉えたきめ細やかな支援が求められています。一方で、学生からは教職員の高圧的な態度等に対し批判も寄せられています。より良い社会人・市民を育成する最後の教育の場として、社会的ルールを伝えるとともに、学生のプライドや人格を尊重した支援の姿勢が求められています。

### ○進路状況

教員養成課程の学生と現代学芸課程の学生には、キャリアデザインに大きな違いがあることがわかりました。教員養成課程の学生は1、2年生の9割以上が教員・保育職を目指しており、3年生段階で、本当

にこのまま教員・保育職で良いのかを考えた上で最終決定している様子うかがえます。それに対し、現代学芸課程では1年次から教職、公務員、企業、進学という幅広い選択肢が並行的に存在し、自己の適性や学びによって進路を決定していく様子うかがえます。したがって、課程別の特徴を踏まえたガイダンスや進路相談、情報提供等の支援が求められていると言えます。

### ○課外活動状況

課外活動団体への加入率は学部全体の6割で、体育系の所属が2/3を占めました。しかし、週3日以上活動している学生はその4割に過ぎません。また、大学祭への参加率は7割、子どもまつりは2割程度です。大学祭や子どもまつりに参加しなかった学生の理由は「興味がない」が過半数を占め、課外活動に参加しない学生の理由は「なんとなく」が過半数で「束縛されたくない」が続いています。教育系大学の学生として、課外活動や諸行事への参加は人間性を向上させる上で有効であると考えられ、これらの活動やボランティア活動、様々な学生主体の活動が継続・発展していけるような支援が重要であると考えます。

### ○建物・学習環境・生活環境に対する意識

学部1～3年生は、空き時間を附属図書館で過ごす率が約4割と高く、次いで福利施設(生協等)や自習室・空き教室となっていました。4年生や大学院生はセミナー室・科室の利用が高くなっています。学生が多く利用する建物の美化や環境整備が求められます。特に、教室の空調に対する要望(集中管理の廃止、時期ではなく気温を基準にした使用許可、土日や朝の使用の容認等)が多く出されましたが、省エネという観点にも配慮しながら学習環境整備としての検討が必要でしょう。

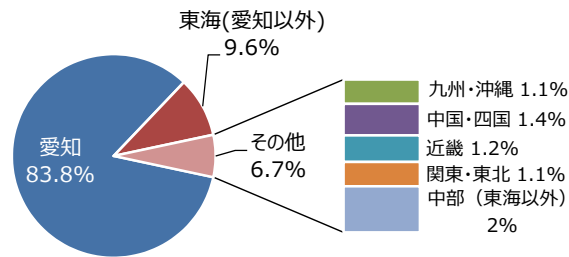
また、食堂・売店などの福利施設を充実することへの要望も34%と多く出されました。生協を含めて、学生が日々多く利用する施設・サービスに対する更なる改善が求められています。



## 14)参考資料

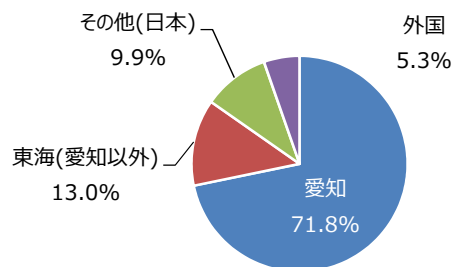
出身地別入学者(学部) [人]	
愛知	789
東海(愛知以外)	90
九州・沖縄	10
中国・四国	13
近畿	11
関東・東北	10
中部(東海以外)	19
合計	942

出身地別入学者(学部)



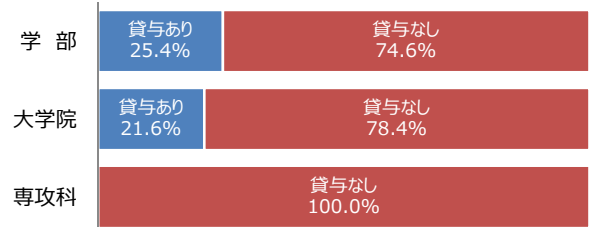
出身地別入学者(大学院) [人]	
愛知	94
東海(愛知以外)	17
その他(日本)	13
外国	7
合計	131

出身地別入学者(大学院)



平成27年度日本学生支援機構奨学金貸与者数 [人]			
	在学者数	貸与あり	貸与なし
学部	3882	985	2897
大学院	301	65	236
専攻科	34	0	34

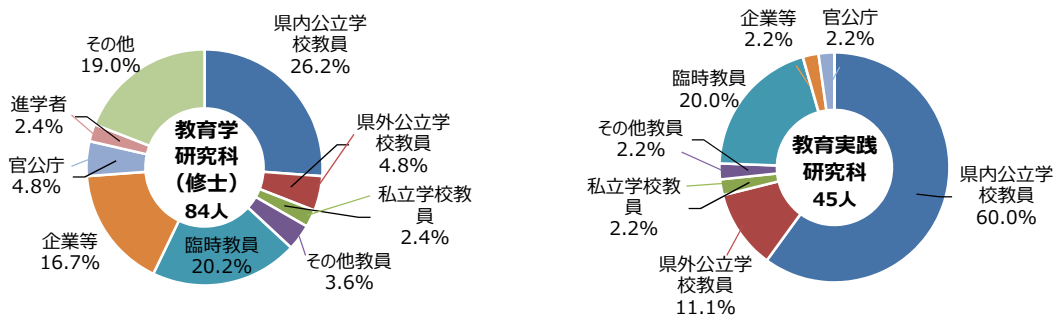
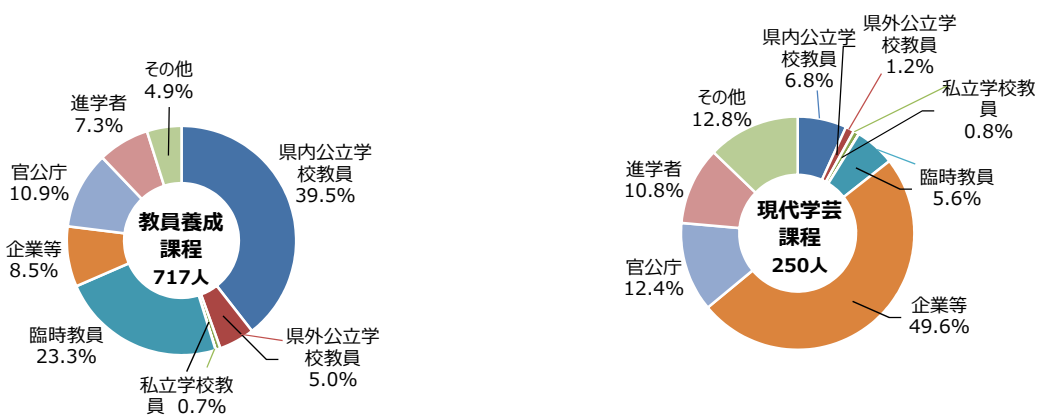
平成27年度 奨学金貸与者



(2015.12 現在)

平成27年度授業料免除申請状況 [人]												
区分	学年	前期					後期					
		申請者	基準外	免除許可者			申請者	基準外	免除許可者			
				全額免除	半額免除	教職特別措置			全額免除	半額免除	一部免除	教職特別措置
学部	1年	68	10	49	9	-	68	7	47	11	3	-
	2年	80	7	57	16	-	94	5	64	22	3	-
	3年	93	6	67	20	-	92	3	68	19	2	-
	4年	99	7	74	18	-	97	5	76	12	4	-
大学院	修士	67	3	22	13	-	68	1	27	9	2	-
	専門職	9	0	7	2	29	9	1	7	1	0	29
	博士	1	0	1	0	-	1	0	1	0	0	-
専攻科		1	0	1	0	-	1	0	1	0	0	-
合計		418	33	278	78	29	430	22	291	74	14	29

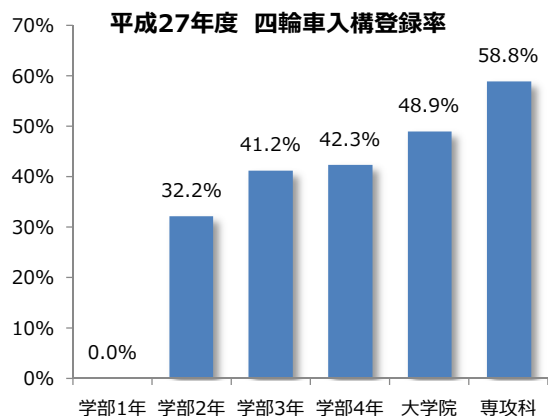
平成 26 年度卒業生就職状況		[人]			
		教員養成課程	現代学芸課程	教育学研究科(修士)	教育実践研究科
教員	県内公立学校教員	283	17	22	27
	県外公立学校教員	36	3	4	5
	私立学校教員	5	2	2	1
	その他教員	0	0	3	1
	臨時教員	167	14	17	9
企業等	61	124	14	1	
官公庁	78	31	4	1	
進学者	52	27	2	0	
その他	35	32	16	0	
合計		717	250	84	45



平成 27 年度 四輪車入構登録			
	学生数 [人]	登録者数 [人]	登録率
学部 1 年	942	0	0.0%
学部 2 年	939	302	32.2%
学部 3 年	949	391	41.2%
学部 4 年	1,071	453	42.3%
学部計	3,901	1,146	29.4%
大学院	309	151	48.9%
専攻科	34	20	58.8%
合計	4,244	1,317	31.0%

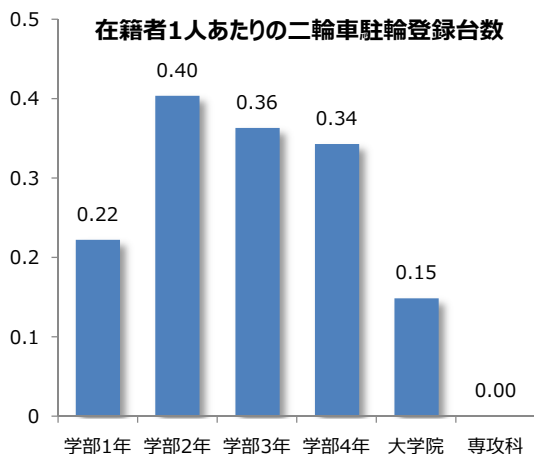
駐車可能台数\* 1,109

\* 障害者・来客用等除く、非常勤講師・教職員専用含む



二輪車入構登録者							
	学生数 [人]	許可台数					1人あたりの 台数
		自転車		オートバイ		計	
		H26	H27	H26	H27		
学部 1 年	942	0	206	0	3	209	0.22
学部 2 年	939	343	12	11	12	378	0.40
学部 3 年	949	322	0	19	3	344	0.36
学部 4 年	1,071	236	0	128	3	367	0.34
学部計	3,901	901	218	158	21	1,298	0.33
大学院	309	25	9	4	8	46	0.15
専攻科	34	0	0	0	0	0	0.00
合計	4,244	926	227	162	29	1,344	0.32

自転車駐輪可能台数 1,456





平成27年度 学生生活実態調査報告書

---

平成28年3月発行

編集 愛知教育大学学生支援委員会  
委員長 新井 美保子(幼児教育講座)  
副委員長 森崎 博志(障害児教育講座)  
委員 中妻 雅彦(教職実践講座)  
中筋 由紀子(地域社会システム講座)  
稲毛 正彦(理科教育講座)  
田中 優司(保健環境センター)

愛知教育大学 教育・学生支援部 学生支援課  
〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1

